

## 公表

## 事業所における自己評価結果

事業所名	ゆうあいくらぶ 児童発達支援				公表日	令和 8年 2月 2日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		活動内容や、利用時の状況により部屋を分けたり、パーテーションで区切るなどの工夫をしながら対応している。	利用児童に対する面積は十分に満たしていると思うが、ひとり一人に合わせた支援が行き届くよう、今後もスペースの工夫が必要と考える。	
	2 利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6		利用児童の人数に合わせて職員を配置しており、1対1のかかわりを大事にしている。	曜日によって児童数は異なるが、1対1のかかわりを大事にしている為、児発児に対する職員配置は満たされていると感じている。今後もこの人数体制で対応できればと考えている。	
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6		児童、職員共に分かり易い構造になっている。限られたスペースを有効に活用する為、最大限の構造化を図っている。	今後も利用者に合わせた環境を工夫していく。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		児童が心地よい環境の中で過ごせるよう環境整備を常に心がけている。	活動内容によってはパーテーションで区切ったり部屋を分けて対応しているので今後も継続していく。	
	5 必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		緊急時や体調不良時の他、情緒不安、宿題をする時など必要に応じた場所を確保している。	今後も、必要に応じて使用可能な状態を確保していく。	
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5	1	全職員が集まることが中々難しい為、朝礼などをを利用して短時間でも話し合いができるよう工夫している。	定期的に設けている事業所会議を有効に活用しながら検討していく。	
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		家族の思いに寄り添えるよう努力している。園行事等でお休みの場合、代替日利用を提供している。	アンケートを実施しているので、その評価結果をもとに、今後の業務改善に努めていく。	
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		定期的に、事業所会議や支援会議を設けたり支援の合間に情報共有するなどの工夫をしている。	今後も、事業所会議や支援会議の機会を定期的に確保する等、情報共有しながら業務改善につなげていく。	
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	2	年2回の報告会を設けて、第三者より評価を受け、その結果をもとに職員間で検討し業務改善に努めている。	今後も第三者による外部評価の結果を業務改善につなげていく。	
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		外部研修や法人研修の他、オンライン研修等にも参加している。	今後も積極的に研修に参加し、スキルアップを図っていく。	
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		令和6年11月よりホームページにて公表している。	令和6年11月よりホームページにて公表している。	
	12 個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6		実施している。	今後も、利用児と保護者に寄り添う計画書の作成に努めていく。	
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5	1	実施している。	今後も職員の共通理解のもと、保護者(児童)のニーズに合わせた、児童発達支援計画書を作成していく。	
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4	2	内容の共有が不十分な点もあるので、事業所会議や支援会議の中で情報共有が行えるよう工夫している。	定期的に設けている会議等(事業所会議、支援会議)を有効に活用し、よりよい立案ができるよう取り組んでいく。	
	15 子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5		現行のアセスメントにて課題を取り出している。	今後も継続していく。	
	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5	1	児童発達支援管理責任者が中心となり、児童の状況に応じて職種を選び対応している。	今後も、日々の連絡方法やモニタリング時に丁寧な説明を行っていく。	
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		全員集まれる機会が少ない為、短い時間でも話し合いを持つよう工夫し、個々に意見を出し合って検討している。	定期的に設けている事業所会議や支援会議を有効に活用しながら検討していく。	
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		毎回楽しく活動できるよう工夫している。	今後も、楽しく活動できるよう職員間で意見を出し合いながら検討して行く。	

	19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6		実施している。	今後も利用児の状況に応じた対応を心掛けていく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5	1	朝礼等を含め、前回支援からの気付きを共有したり、保育所や幼稚園からの申し送りを共有しながらその日の動きの確認をしている。適宜情報共有に努めている。	今後も、朝礼等を含め、随時情報共有に努めていくとともに、申し送りの方法を再度検討していく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	1	5	支援終了後は職員も送迎に出てしまう為、中々時間が取りにくい状況がある。翌日の朝礼で支援の振り返りや、気付きの共有を行うなど工夫している。	その日の支援の振り返りは必要だと思うが、送迎や各自の業務で時間が取れず、支援会議にて話し合っている現状がある為、より良い方法を検討していく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		実施している。	今後も日々の支援記録の徹底に努めるとともに、内容に関しても細かい視点での記録作成を行うよう努める。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		実施している。	今後も定期的なモニタリングを実施し、支援内容の見直しを保護者と共に考えながら、より良い支援につなげていく。
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		児童発達支援管理責任者が中心となり対応している。	今後も、児童発達支援管理者が中心となって対応し、よりよい支援のために情報を共有していく。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6		児童発達支援管理責任者及び看護師が中心となり対応している。	リハビリ通院している児童に対する内容把握や、支援中の注意点が把握できる機会があればよいと考える。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5	1	併行利用に伴う利用日の調整や支援の方向性など、各所と情報を共有している。	今後も、併用利用に伴う利用日の調整や支援の方向性など、各所と情報を共有して行っていく。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5	1	実施している。	今後も関係機関と連携を図りながら、より良い支援につながるよう努めていく。
関係機関や保護者との連携	28	(28~30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	2	4	外部の研修に参加したり、上山療育センターの研修(zoomを含む)などを受ける機会を設け改善を図っている。 ※南陽市内に児童発達支援センターがないのが実情。	南陽市内に、児童発達支援センターが無い為、外部研修がメインとなっている現状がある。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	3	3	保育所等との交流機会がないのが実情だが、おもちゃ図書館利用のお子さんや、外出支援先での交流などを今後も検討している。	保育所等との交流機会はないが、おもちゃ図書館利用のお子さんとの交流や、外出時に他児童とかかわる機会は設けている。今後も継続していく。
	33	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		おたより帳や面談、モニタリングなどを通じて状況を伝え、職員共通理解のもと支援につなげている。	今後も継続していく。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	2	職員のスキルアップが必要となる為、今後も研修等に参加しスキルの向上を図りつつ、家族支援につなげるよう努めている。	今後も研修等に参加しスキルの向上を図る。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		契約時に行っている。	今後もより丁寧な説明を行っていく。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		アセスメントやモニタリング時の他、必要に応じて意思の確認を行いながら作成している。	保護者が話しやすい環境の設定を行なながら、家族の意向を確認できるよう今後も務めていく。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6		モニタリング時に計画書を提示しながら支援内容を説明し、一緒に確認して同意を得ている。	今後も継続していく。

保護者への説明等	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		実施している。	今後も継続しながら、よりよい子育てができるようサポートしていく。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		6	保護者会(父母の会含む)を作ることは特にしていません。地域貢献として令和6年1月24日より、おもちゃ図書館を開催している。	おもちゃ図書館を今後も継続していくながら地域交流の場を提供していく。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		速やかに情報収集をするなどし、迅速に対応している。	遅延なく対応できるよう今後も務めていく。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6		不定期ではあるが、通信を発行している。また、法人広報誌を年3回発行している。令和8年度からは、通信を定期的に発行していくよう検討している。	不定期ではなく定期的に通信を発行できないか検討していく。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		個人情報管理規定に基づき管理している。	今後も情報の流出が無いよう、管理規定に基づいて管理していく。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		全職員が、児童、保護者ひとりひとりに合わせた対応を行いながら配慮している。	今後も継続しながら配慮していく。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	4	おもちゃ図書館を開催することにより、地域住民を招待する機会が増えた。おもちゃ図書館の広報誌を、市内各施設等に置いていただきで、市外からの利用者も増えた。	おもちゃ図書館を開催することにより地域住民を招待する機会が増えたことはいい事だと思うので継続して行っていく。
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6		緊急時対応マニュアルを作成しているが、想定訓練は職員のみ行っている。保護者への周知徹底は、現在検討中。	災害マニュアルを分かりやすくして開示する方向で検討中。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5	1	定期的に職員のみ参加の避難訓練(火災・水害・地震)を想定して実施している。	今後も、検討しながらより安全に避難できる体制を整えていく。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	6		初回アセスメントでの聞き取りの他、通院状況及び服薬状況を看護師のみでなく、職員全体で周知徹底し対応している。	今後も全職員で周知徹底していく。
非常時等の対応	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4	1	指示書がある児童の場合には、その内容を看護師含め全職員で情報共有し、対応していく。	今後アレルギーのある児童の利用がある際には厳重に対応していく。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6		内部研修等で技術の向上を図っている。また、定期的な防災訓練の他、定期的に室内外の環境整備を行い安全管理に努めている。	今後も研修等に参加し、安全管理が行き届いた環境の中で支援を行っていく。
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4	2	事業所としてマニュアルを整備し、安全計画に基づく取り組み内容について、今後ご家族に周知できるよう検討している。	今後も話し合いの機会を設けていく。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		ヒヤリハットが発生した際には、家族への連絡を迅速に行い、必ず記録を作成し、全職員への情報共有と再発防止に努めている。	今後も保護者に対して迅速な対応を行いながら、再発防止につなげていく。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		法人としての定期的な研修の場がある。虐待防止マニュアルを整備している。	全職員に周知するよう努めていく。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	2	3	事業所としてマニュアルを整備し、今後身体拘束を必要とする児童の利用がある際にはマニュアルに沿って対応していく。	今後身体拘束を必要とする児童の利用がある際には、マニュアルに沿って対応していく。